国語学習指導案

１　単元名　　作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう　「やまなし」

２　単元の目標

◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(１)オ

○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。　〔知識及び技能〕(１)ク

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を想像したりすることができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕C(１)エ

○表現や構成等に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書くことができる。　〔学びに向かう力、人間性等〕

３　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。　((１)ク)	・「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(１)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(１)オ)	・表現や構成等に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。

４　単元について

(１)児童の実態（一部省略）

（実態を受けて）本単元では、自分の考えをまとめる手助けとなるように単元と並行して宮沢賢治のほかの作品についても紹介し、作者の作品の世界観をよりつかめるようにしていきたい。資料である「イーハトーヴの夢」に出てくる「やまなし」以外の作品を中心に紹介し、作者がどのようなことを伝えるために作品を残したのかという思考の補助になるようにしていく。

（２）言語活動と扱う教材・単元を通して身に付けさせたい力

本単元は、「物語を資料と重ねて読み、作品世界について考えたことを書く」という言語活動を通して、「C　読むこと」の「エ　人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」、「オ　文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」の資質・能力の育成を目指す。

「やまなし」は、物語の描かれた世界について、資料「イーハトーヴの夢」を参照しながら、その表現や構成、作者の思いなどの面から自分なりに筆者の意図を捉え、文章にまとめて交流する単元である。資料である「イーハトーヴの夢」を読んで宮沢賢治の生涯を知り、それを手掛かりに自分がこの作品を読んで何を感じ、何を考えたかを文章にまとめていく。その際、宮沢賢治の独特の色彩豊かな表現や描写を味わうとともに、人物そのものの生き方に触れることを通して、作品の世界観を捉えさせていきたい。そして、この単元をこれからの読書活動でも作品世界を想像しながら物語を読んでいくことができるような足掛かりとなるようにしていきたい。

5　国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成するための授業の手立て

(1)子供たちが目標を持って学習活動を行うための工夫

単元の流れとして、まずは宮沢賢治の人物像について考え、そこから「やまなし」という作品に込めた思いを考えて文章にまとめ、最後に交流するという流れの見通しを持って学習をしていくことができるようにする。本来は二時間目に「五月」「十二月」の風景を簡単にまとめていく学習をしてから「イーハトーヴの夢」を読んでいくが、本授業ではこれを入れ替え、先に「イーハトーヴの夢」を読んで宮沢賢治の生き方や考え方を知る学習をする。まず宮沢賢治という人物に触れ、人物の側面をある程度理解したうえで作品の内容に触れていくことで、宮沢賢治の考え方がどのように作品に反映されているのか、より感じ取れるようになると考える。また、資料を読んだうえで、宮沢賢治が作品を書く上で大きな出来事だと考えられることを中心にワークシートを用いて年表を作成し、宮沢賢治がどういう体験をしたときに作品ができたのかがよりつかめるようにしていきたい。

(2)見方・考え方を働かせながら思考力・判断力・表現力等を育むための工夫

①「やまなし」は抽象的な言葉が多く、「イーハトーヴの夢」は説明的でなかなか頭に入っていかないことが考えられる。そこで、「イーハトーヴの夢」を読む際は前述の年表を子供たちと一緒に作成していく活動を取り入れ、視覚的にも人物像がつかみやすいようにしていきたい。また、ここで作った年表は本単元の終盤に宮沢賢治が「やまなし」に込めた思いを考える活動にも活かしていけると考える。

②学校図書館と連携して児童が宮沢賢治のほかの作品に触れられるようにしていく。本単元は作品を読んだ後に「やまなし」に込めた作者の思いについて自分の考えをまとめていくが、その際に重要になる資料の「イーハトーヴの夢」をよりよく読むために、並行読書や教師主導で作品を紹介し、ほとんど作者のことを知らない状態から、少しでも世界観をつかむことで作品に込められたテーマを考えていく手助けとなるようにしていく。

（３）指導と評価の一体化を図るための工夫

自己評価では、児童自身が活動を振り返り、課題を見つけて次の学習に対する意欲を高めていけるように、ノートに毎時間の振り返りを記入していく。宮沢賢治の作品に触れ、著者自身の考え方・生き方やそれがどのように作品に影響していると考え学習につなげているかを評価していく。相互評価では、相手の文章を読む際に、自他の共通点や相違点に注目できるよう読み合いの視点を確認する。考えが後で共有できるように意見を付箋でまとめて置き、友達の意見を後で振り返って確認できるようにしていく。

6　指導計画

次	時間	学習活動	指導や支援の手立て(◇は評価)
第一次	1	○単元扉を見て、学習への意欲を高め、作品について想像できることを話し合う。 ○「やまなし」を読み、単元のめあてを設定し学習計画を立てる。	○作者への興味が増すように、作者のその他の著書を挙げたり、あらすじを紹介したりして、想像を膨らませることができるようにする。 ◇単元のめあてや学習計画を理解し、見通しをもって「やまなし」「イーハトーヴの夢」を読もうとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）
第二次	2	○「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について話し合う。	○宮沢賢治の言葉や行動について、節目ごとに整理し、年表を用いて生き方や考え方を捉えられるようにする。 ◇物語世界の全体像を具体的に想像するとともに、宮沢賢治の生き方や考え方、作品の特徴を捉えている。 （思考・判断・表現）
	3	○「五月」「十二月」で描かれている風景を、タブレットを使って簡単な絵や図に表す。	○表した絵や図と文中の言葉とを見比べることで、児童全員が様子や出来事を視覚的に捉えることができるようにする。
	4	○「やまなし」の心引かれる表現に線を引き、その情景を想像する。	○それぞれの表現をどう捉えたかを交流する場を設ける。また、色を表す言葉に着目させ、二つの幻灯を対比させながら違いを明確にしていく。 ◇語のリズムや表現の持つ美しさ、比喩などの表現上の特色に気付いている。 （知識・技能）

	5 （本時）	○「五月」と「十二月」の場面を比べ、感じたことや考えたことをまとめる。 ○「やまなし」という題名について、なぜその題名にしたかを考える。	○「かわせみ」と「やまなし」の違いを話し合う場を設け、題名の意図に迫っていけるようにする。 ◇題名に着目しながら二つの場面を比べて読み、表現の効果を考えている。 （思考・判断・表現）
	6	○宮沢賢治が「やまなし」に込めた思いについて考え、文章にまとめる。	○「やまなし」「イーハトーヴの夢」の叙述や年表を基に、自分の考えを書くようにさせる。 ◇作者が作品に込めた思いについて、資料の叙述に基づいて自分の考えをまとめている。 （思考・判断・表現） ◇表現や構成に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み学習の見通しをもって自分の考えをまとめようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）
第三次	7	○書いた文章を読み合い、感想を交流する。	○共通点や相違点に着目するよう促す。 ◇自分の文章との相違点を考えながら進んで考えを共有しようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）
	8	○学習の振り返りをする。	○「この本、読もう」で読書を広げる。 ◇単元全体を振り返るとともに、これからも作品世界を想像しながら進んで読書をしようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）

７　本時の指導

(１)本時の題材

本時では、前時まで考えてきた心がひかれる言葉や表現を、「五月」と「十二月」の場面に分けて考え、対比的にまとめていく。そして、物語の題名がなぜ「やまなし」なのか、筆者の思いをくみ取れるようにしていく。意見をまとめやすいように、対比的に書かれているにもかかわらず、なぜ片方のものを題名としているのか等、適宜発問し支援をしていく。

(２)本時の目標

「五月」と「十二月」の場面を比べて読み、なぜその題名にしたのかを話し合うことを通して表現の効果を考え、作品の世界を捉えることができる。　(思考力、判断力、表現力等)

(３)本時の展開(５／８)

学習活動と内容	指導や支援の手立て(◇は評価)
１　本時の学習内容を知る。	
「五月」と「十二月」を比べて、なぜ「やまなし」が題名なのか考えよう。	
２　「五月」と「十二月」の場面を対比的にまとめていく。 「五月」 谷川の様子…　青白い水の底 青く暗く鋼のよう カニの親子…　あわをはいている クラムボンの話 怖くて震えている 上から来た…　魚 かわせみ 「十二月」 谷川の様子…　しろいやわらかな 金雲母のかけら カニの親子…　あわ比べをして競う やまなしの後を追う 上から来た…　やまなし 黄金のぶち	○「出来事」、「様子」、「上から来たもの」等の観点に分けてまとめていく。 ○色について着目させ、それぞれの時期の相違点を見つけさせる。 (何度も使われている色、それぞれの色が与える印象等) ○全体で共有し、相違点を明らかにした後、その違いから感じたことを考えさせる。 ○「かわせみ」と「やまなし」を取り上げて比較させ、次の活動につなげる。
３　題名について考える。 対比的に書かれている「五月」と「十二月」で、なぜ「十二月」の「やまなし」が題名になっているのか。	○なぜ「かわせみ」ではなく「やまなし」なのか、読み手がどのように感じてほしかったのか筆者の意図を考えさせる。 ◇「五月」と「十二月」の場面を比べて読み、なぜその題名にしたのかを話し合うことを通して表現の効果を考え、作品の世界を捉えることができる。 (思考・判断・表現)
４　振り返りを書く。	○題名に関して、自分の意見がまとめられたかどうか振り返りをする。
５　次時の見通しをもつ。	○筆者がこの作品に込めた思いについて自分の考えをまとめていくことを伝える。